

断酒会とAAの精神的風土性

中田 陽造*

Endemic Mentality of Anti-Alcoholism Society and Alcoholics Anonymous (AA)

Yozo Nakata, M.D. : Osaka University Medical School

断酒会とは

俗に「アル中」といわれる状態は、医学的に慢性アルコール中毒と称せられ種々な身体的社会的障害（表1—7.8.9.）を認めるが、その基礎をなす不治の精神科的障害はアルコール依存症と称せられる。重要事項は、表1（1.～3.）に示すように、酒を止めることはできるが、1人で止め続けられなかったり、一杯だけで止められず、その時の限度いっぱいまで飲んでしまう病気である¹⁾。そこで、この病気の根治療法は、その一杯に手をつけないこと、つまり断酒しかない。

「酒を売っていてもかまわない。他人は飲んでもかまわない。しかし私は、人間を止めないために酒を止めた」と、主体的に断酒している約4万人のアルコール依存者（酒害者）を組織する自助集団の社団法人・全日本断酒連盟（全断連：大野徹理事長）は、昭和38年11月10日、高知と東京の断酒会を母体として発足した。断酒会活動の基本は、地域の例会出席であり、毎夕7時から9時まで、断酒者と家族が参集して体験談を語り合う。その他、日曜や休日には各

* 大阪大学医学部環境医学講座

表1 心理行動科学的アルコール依存テスト¹⁾

1. 酒を止めようと思えば、いつでも止めれたが、やがて、一杯ぐらいいいだろうと言う気持ちが起こり、結局、元の木阿弥になってしまった。
2. 酒を一杯のむと、二杯、三杯……と欲しくなった。
3. 「一杯だけ」と酒を飲み始めたら、結局、酔い痴れるまで飲んでしまって、その間の出来事を思い出せない時もあった。
4. 物事(例:嫌な思い、面倒な事、一日と言う時間の流れ)を打ち切るために、つい酒。
5. 何かあったら(例:雪月花、嬉しいにつけ、悲しいにつけ)、つい酒。
6. 何もすること無いと(例:休日)、つい酒。
7. 酒の為に体をいためた事があった。
8. 酒の為に人間関係をまずくした事があった。
9. 酒の為に仕事に支障を来した事があった。
10. アル中ではない証拠があると思っていた。
11. 嘘をついたり、言い訳をしながら、一人で飲んでいた。
12. 歯がゆくてたまらないが、ホッとする為に酒を飲んだ。
13. 酒だけは絶対的で、自分から酒を取られたら何も残らないと思っていた。
14. 酒の事がいつも頭にあり、酒を飲む為ならあらゆる工夫や算段をした。
15. 今度こそ上手に飲んでやろうと努力して来たが、後悔しなければならぬ事が多く、明日からでも止めたいが、今日だけは飲みたい。

★ ○印一つの人は問題飲酒者。

★ ○印二つ以上の人はアルコール依存者。

★ 断酒者で、○印11以下の人は、自分の酒害に対する洞察が浅く、「一杯位いいだろう」と再飲酒の危険性が少なくない。

地で記念大会や研修会が催されるし、年に数回、高知や山陰や東北や北海道で断酒学校も開催される。あらゆる会合はいかなる人にも開放されていて、どこでも、参加者が自分の氏名を堂々と名乗って自分の体験談を語ることに終始する。

日本では、古来「家名」を重視する伝統がある。武士は戦場で、まず名乗りを挙げて、その名に恥じない行動をとろうと自らを励ました。このような日本精神文化の伝統を踏まえた断酒会でも、自分の氏名を堂々と名乗って、今日はその名前、つまり自分に恥じない責任と誇りある生きざまをとろうとする。かくて、恥塗られた過去の「アルコール地獄」からの回復を目指し「例会出席」

を続けて精進する。

もう1つ大事なスローガンは「一日断酒」である。今日1日だけ、とにかく断酒する。飲むのは明日にまわす、という心得である。飲酒者も断酒者もともに、飲酒欲求と断酒意欲をもっている。飲酒欲求を今日におくと飲酒者になるし、断酒意欲を今日におくと断酒者になるだけの話である(表1—15.)。そして、今日1日の断酒を辛抱やガマンに終始するのではなく、例会出席によって仲間とともに喜び合うのが、香川の精神科医・小野昌也博士の言う「断酒会人」なのである。かくて、今日1日を大切に作る生きざまがとれる。

断酒会のセルフ・ヘルプ活動の基本は、この「一日断酒」と「例会出席」に尽きる。そこで、どのような大会や研修会へ行っても、正面に、この2行の字幕が認められる。ところで、このような断酒会中心の生活をしていると「不思議に断酒継続できる」だけでなく、心理学的検査でも、情緒が安定し、社会適応性がよくなることを証明できる²⁾。酒を捨てたとき、欲も捨てられている。

「バラバラになっていた家庭にも貧しいながら、世間以上の幸せが戻る」のは、価値観や生きざまが飲酒時代と百八十度変わってしまうからで「断酒新生」とか、「今、ここ、自己」という禅的悟りにも通じる「断酒道」とかいわれるゆえんである。

I AAの誕生と断酒会のできるまで

1. アメリカにおける酒害対策活動の歴史

誰でも酒やタバコのみすぎる人に対して、まず、害を減らすように勧める。同様に、社会の歴史をみても、酒害対策活動の最初は節酒運動であった。かくて、1826年ボストンに Temperance Society³⁾ が設けられ適正飲酒指導に精を出した。アルコール依存症という病気の実態(表1)を知らない間は、個人も社会も、何とか節度ある飲み方をさせようとヤッキーになるが、これは所詮無理な注文である。と、いう次第で、結局、この運動はまったく成果を挙げ得な

かったため、自然消滅してしまった。

そうすると、次にくるのは Prohibition⁴⁾ (禁酒) 運動である。アルコール依存者個人の歴史をみても、最初は必死に節酒努力をする。しかし、それは不可能であるから、飲み過ぎて、大ケガをしたり、吐血したり、クビになりかかったりする頃になると、当然、妻は家に酒をおかなくなっている(禁酒)。それと同様に、社会レベルでも節酒がダメとわかったとき、社会から酒をなくしてしまえ、という運動が起こってくる。この発想は、ユダヤー神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の禁欲的な教義に基礎をおくもので、聖書の中には繰り返し酒の害と節制が説かれているし、コーランの第5章には、禁酒がハッキリと命じられている⁵⁾。ところが、西部開拓時代の物質中心主義のアメリカは、神を見失い、聖書の教えを忘れていた。一段落ついたところで、神の教えが再びもち出されて、節酒がダメなら禁酒を、ということになった次第である。

かくて、1919年、アメリカ合州国は国民投票によって憲法を改正してまで「禁酒法」を施行した。元来、清教徒というきわめて禁欲的な宗教団体がアメリカ開拓の先駆をなした伝統から、アメリカの世論や指導理念には、昨今の米国議会によるブッシュ政権のタワー国防長官指名拒否にみられるような禁欲主義が色濃く認められる。荒々しい西部開拓時代が終わって、世の中が安定期に向かいつつあった19世紀になると、酒害(図1)に対する世論の厳しい反発が優勢になり、まず、1846年メイン州が州民投票で禁酒法を制定した。そして、



図1 酒乱者・D. W. Moody画



図2 禁酒ポスター

図2のような全国的 Dry (禁酒) キャンペーンの結果、ついに、1919年、18th Amendment により連邦政府は全米的な禁酒法を施行した。

しかし、禁酒法という社会的実験をやってみると、禁酒を強制しても「隠れ飲み」が横行して効果を上げられなかった。これは、個人レベルの観察から十分うかがえることで、厳重な閉鎖病棟の中へも飲み友だちが牛乳パックの中身を焼酎と入れ替えたり、スイカやメロンの中へウィスキーを注射したりして差し入れてくれるし、妻が家に酒をおかなくても当人は水洗便器の水タンクや庭の茂みや車のエンジンルームや至るところにワンカップやポケット瓶を隠して、監視の目をかすめて飲酒する(表1-14)のがつねである。社会的にもアメリカで酒の密造所や秘密酒場が繁盛したのは当然であった。結局「酒を飲む飲まんは、当人の問題である」という結論に達して、TV番組に「アンタッチャブル」を残しただけで禁酒法は1933年、放棄された。そうなるとトコトン飲んで、その人にとっての「どん底」まで落ちて、自然に一時的に止酒しているのを何とか継続させるように援助することしか対策はない。かくてアメリカに、断酒会の先輩であるAAが登場する。

2. AAの誕生

イギリスの宗教界では、禁欲的で勤労を奨励するカルバン派の流れを汲むプロテスタントがヘンリー八世の国家権力と結びついて、1534年、英国国教を形成し、独裁的に支配した。当然、純粹のキリスト教精神が世俗化されてくる。これに対する改革運動が、1833年、オックスフォード大学を中心に起こった。史上 Oxford Movement と称せられる。これは教会の改革に止まらず、神を見失っていたスラムの貧民に靈的慰めのメッセージを伝えるような精神面での社会的活動や、さらに、労働組合による労働条件の改善を支援するような実際の社会改革活動にまで発展したが、政府と教会の弾圧にあって活動聖職者は教会を追われ、カトリックへ転向した人も多かった³⁾⁶⁾。

ところで、クロンウェルによる17世紀の清教徒革命の余波を受けて、アイルランドの農民はイングランドの新教徒に土地を奪われ、難民となってイングランドの大都市へ流入し、それがイギリス産業革命に安価な労働力を提供することになったわけだが、同時に、アメリカ東海岸、特にボストンを中心とした地域へも移民していった。ゲルマン系アングロサクソン族のイングランド人と違って、アイルランド人はラテン系ケルト族で、宗教もカトリックを信仰している。と、いう次第で、オックスフォード運動からカトリックへ転向した聖職者もカトリック・コロニーであるボストンへ渡って行き、そこでオックスフォード運動も継承されることとなる。

このボストンに、株式仲買人ビルというアルコール依存者がいた。株式仲買人という職業は資本主義アメリカの花形で、もちろん、物質中心主義者であった。酒害のためにすべてを失って失意の「どん底」にあった折、1人の旧友の訪問を受ける。その旧友はオックスフォード運動をアメリカで推進しているグループに属していた。この出会いによってビルは靈的メッセージを受け、酒の代わりに、見失っていた神を再び受け容れる⁷⁾。1934年のことであった。図3の止酒による心の空洞(表1-13)は、かくて、唯一絶対的な神によって充たされる。そこでビルは自分へもたらされた靈的メッセージを、次々と同じよう

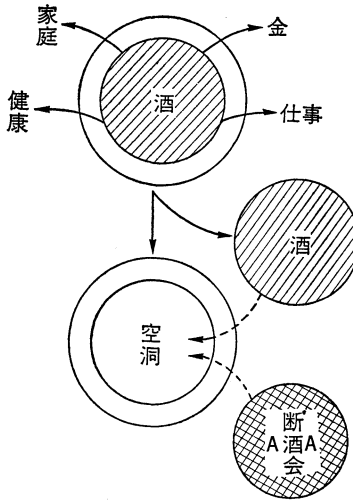


図3 アルコール依存者の心の酒害空洞⁹⁾

酒だけは絶対的で(表1—13), 酒をやめると心の中にポッカリと空洞ができたような気になり, 空しくて元気がなくなったり病気になる。この空洞はAA や断酒会でしか埋まらない。

表2 AAプログラムの重点事項⁷⁾

A. 12 Steps of recovery :

1. We admitted we were powerless over alcohol……that our lives had become unmanageable.
2. Came to believe that a Power greater than ourselves could restore us to sanity.
3. Made a decision to turn our will and our lives over to the care of God as we understood Him.

B. 12 Traditions of A. A.

1. Our common welfare should come first ; personal recovery depends upon A. A. unity.
2. For our group purpose there is but one ultimate authority……a loving God as He may express Himself in our group conscience. Our leaders are but trusted servants ; they do not govern.
3. The only requirement for A. A. membership is a desire to stop drinking.

な酒害に悩む人たちへ伝えていった。そのなかで、1935年、アルコール依存者の外科医ボブと出会う。そして、この2人を中心にAA運動が、キリスト教の支援を得て、アメリカ全土へ広がっていった⁷⁾。

AAには、回復のための12 Stepsという方式がある。表2 Aにみられるように、Step 3は「身も心も神に委ねる」とある。この神は、ヤハウェ（ユダヤ教）でも、イエス（キリスト教）でも、アッラー（イスラム教）でもよいが、とにかく、そのような唯一絶対的な神（Him単数形）に自分のすべてを委ねることが、酒を止め得る大前提となっている⁷⁾。これは、ある意味では、ルーターやカルバンの宗教改革に匹敵するもので、アメリカ物質文明に対する清教徒的精神文化革命ともいえよう。

アルコール依存者にとって、アルコールは神にも等しい存在であったが、唯一神は、当然、その神以外の一切の神を拒絶させる。そこで、その唯一神を受け容れる霊的契約さえ結べば、それで万事は終了する。この契約書が、(旧約)聖書（ユダヤ教）であり、新約聖書（キリスト教）であり、コーラン（イスラム教）であるわけで、あとは、各人の信じる神にすべてを委ねておればよいことになる。真の信仰を回復した人は、ヨブ記にあるように、いかなる苦難にあっても神を信じ讃えておれるから⁹⁾、ウサ酒を飲む必要もなくなるわけである。このようなAAでは、当然、医療者より神との仲介者である聖職者の意義が重視され、酒を止めた者と、同数の聖職者による委員会形式での運営が定められている。各個人は本来、神と1対1で直接契約しているわけだから、王様もコジキも神の前では本質的に平等であるという宗教的伝統から、会長のような人の上に人をおく職務はAAにない（表2 B）。

自我の確立を主張する西洋の近代精神に抗して、12 Traditions ではいかなる個人より神の栄光を強調する。神の子羊である各人は本質的に anonymous で、Family Name を用いず、ビルとかボブのような Nickname で付き合う。それで会の名称も Alcoholics Anonymous (AA) となっている。断酒会に対比するとよくわかるAAの特徴は、オックスフォード運動の一環として誕生した歴史的事実から十分うなずけるところである。また、このようなAAのメン

バーが、清教徒的精神風土のアメリカ社会で高く評価されるのも当然であろう。筆者は、アメリカへ6年にわたって留学した体験がある。そのとき、西洋を理解するキーワードは、ユダヤ神教の伝統と古代ギリシャ文化であることを痛感した。その意味から、AAの誕生は西洋文化5,000年の歴史上における1つの必然的なEventであるともいえよう。

日本では、昭和32年10月より西宮市の武庫川（精神）病院において、吉田優博士や子安義彦博士を中心にAAのミーティングが毎土曜日午後に関催される運びとなった。以来、大阪市の北野教会、西宮市の夙川教会、神戸市の中山手教会とAA活動は広がっていった。ところで、医療側の中心であった武庫川病院が解消して兵庫医科大学となったとき、病院にあったAAも消滅した¹⁰⁾。しかしAAは、本来の姿であるキリスト教会主導により、むしろ隆盛に向かい日本各地へ広がっていった。ルネッサンス期の名外科医アンブロワーズ・パレが「外科医が包帯を巻き、神これを治したまう」と、いみじくも言ったごとく、医療は所詮、治る方向へのスタートをきらせるだけで瞑すべきものといえる。

3. 断酒会の誕生

元来酒に寛容な日本における酒害対策活動も、キリスト教徒による適正飲酒運動からはじまった。明治19年、キリスト教婦人矯風会が結成され、矢島楯子を中心に公娼制廃止、婦人参政権等のような女性開放運動の一環として、婦女子を泣かせる酒害者に対する適正飲酒指導が熱心に展開された。実は、矢島楯子の前夫が旧細川藩士の酒乱者であったので、彼女自身が家族としての苦しみを身をもって体験していたからであろう。しかし、節酒は所詮不可能であるので当然の帰結として、明治23年3月に東京禁酒会を発足させ、さらに明治31年5月には日本禁酒同盟を結成して社会から排酒しようと図る¹¹⁾。

東京禁酒会以来30年にわたって会長を勤めた安藤太郎は旧旗本で、榎本武揚に従って五稜郭に立てこもったりもしたが、榎本武揚が明治政府の通信大臣に登庸されたとき、安藤太郎も初代ハワイ総領事として、日本移民の監督のために渡洋した。当時、海外移民の実態は「棄民」であって、劣悪な労働条件の希

PLEDGE

The undersigned officers and students of the Sapporo Agricultural College, hereby solemnly promise to abstain entirely from the use, in any form, except as medicines, of opium, tobacco, alcoholic liquors and also from gambling and profane swearing, so long as we are connected with the institution.

Nov. 29th, 1876.

William S. Clark.

William Wheeler.

D.P. Penhallow.

下に名を記するところの札幌農学校の
教官並びに学生は、今日以後、薬用とし
ての外、如何なる形式に於ても絶対にア
ヘン、タバコ、酒を用いず。ばくち及び
神を汚す誓言を為さざることを厳肅に誓
う。

一八七六年十一月二十九日

ウイリアム・S・クラーク

ウイリアム・ホイラー

デー・P・ペンハロウ

(以下伊藤一陸ら学生署名)

図4 Pledge(Nov.29, 1876)¹² 中田論文、断酒会

望もない生活のなかから酒に溺れ、ケンカやトラブルが絶えなかった。ところが、安藤太郎氏自身が、実は大変な鯨飲者であったと伝えられている。ここに、キリスト教メソジスト派の美山貫一牧師が登場し、その導きを受けていた安藤文子夫人が、たまたま榎本武揚から送られてきた灘の大樽を打ち割って、ハワイの砂に吸い込ませてしまったのをキッカケに何かを悟った安藤太郎は、その明治20年(1887年)12月11日以来ブツリと断酒しはじめた。これが、時あたかも禁酒運動の盛り上がりつつあったアメリカの新聞に大々的に取り上げられたので、(今でもそうであるが)アメリカを介する情報から自国民の動静

を評価する日本では、明治22年10月帰国した安藤太郎を時の人にした¹²⁾。つまり安藤太郎は断酒者であったわけで、禁酒主義者とは立場が違ってははずで、本来なら、ここで断酒会を組織すべきであったが、実際は、明治23年11月東京禁酒会の会長に担ぎ上げられてしまった。

その後、彼はヨーロッパへの大使のような官途の誘いを、文子夫人の強い勧めで一切断って、会長としての断酒精進一筋の人生を送った¹²⁾。ところで、自ら主体的に断酒するという意味での断酒者集団としては、明治9年、札幌農学校の伊藤一隆等、一期生13人がキリスト者クラーク校長とともに断酒を誓い合った事例もある（図4）が、断酒会にまで発展しなかった。

さて、日本禁酒同盟の活動は、社会から排酒することを主たる目的としていたが、日本に断酒会を誕生させる土壌となったことも確かであった。クェーカー派クリスチャン小塩完次（第10代）会長の昭和26年、キリスト教救世軍の山室武甫が渡米しAAを日本へ輸入して、禁酒同盟の中に「断酒友の会」を発足させた¹⁴⁾。クリスチャンである山室武甫の偉さはAAの12 Stepsを「断酒誓約」に翻訳したとき、Step1は、そのままにしたが、肝腎のStep2と3の「God」を抜いて、宗教心のない日本人向けに「断酒会同志」（仲間）へおき換えてしまったことである。この断酒誓約5か条は、その後、高知の精神科医・下司高磨博士によって読みやすい「断酒の誓」（表3）へ書き改められた。しかし地域によっては、今でも断酒誓約を用いているところもある。なお、断酒会で日々用いられている「心の誓」「家族の誓」は、下司博士が昭和39年12

表3 断酒の誓

1.	私達は酒の魔力にとらわれて 自分の力だけでは どうにもならなかったことを認めます。
1.	私達は過去の過ちを悟り 迷惑をかけた人々に できるだけつぐないをします。
1.	私達はお互いに助け合い 酒癖に打ち勝って おおしく 新しい人生を建設します。
1.	私達は酒癖に悩む人々の相談相手となって 酒を止める様に勧めます。
1.	私達は宗教や思想に関係なく 断酒会同志として団結します。

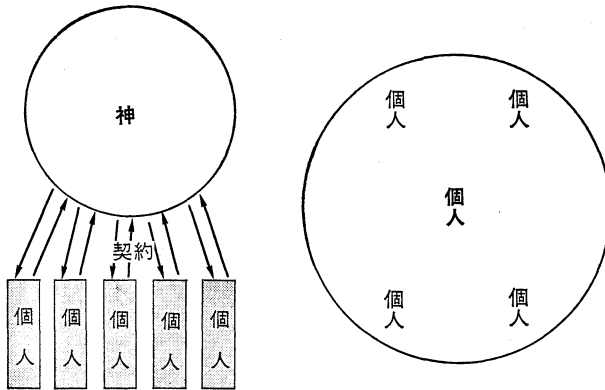


図5 西洋と日本の安心構造 西洋では唯一神と一対一の契約を結び、日本では集団に着一する。この集団には1つの「顔」（中央の太字）がある。

月8日早朝、一気に書き下したものとされている¹³⁾。

回りを大洋に囲まれた小さな島国に何千年も暮らしてきた日本人の生活信条は「和」の精神であった。これが、時には「赤信号、みんなで渡れば恐くない」とう風にもなる。そこで、飲酒社会にいと飲むことによって「みんなと一緒に」になり、断酒会のなかに入ると飲まないことによって「みんなと一緒に」になる、という心理が働くので、断酒会会員になる意義はきわめて大きい。古来、唯一絶対的な神をもたない日本人には、絶対的な善悪よりも集団内の同質性が重視されるわけで、「社長も社員も皆家族」と唱えながら、土居健郎博士が指摘する「甘え」を接着剤として、「根回し」儀礼によって「集団」は1つにまとまる。この際、没个性的な構成員全体を象徴する集団の「顔」役が大事になる。内においては、この顔に免じて妥協するわけであるし、外に対しては、この顔役が腹を切ることによって集団全体が免罪される。とにかく日本においては、絶対的な神がない代わりに、帰属する集団と、その象徴としての顔が大事（図5）になる。この顔が城主であり、社長であり、組長であり、教授である。そこで、AAと違って、日本では「断酒会」というキッチリした組織が作り上げられた。これが第一の特徴である。現在、各都道府県単位の組織の下に各市町村単位の組織があり、その下にさらに地域ごとの支部組織がある。おの

おのの組織には会長がおり、支部長がいる。全国的には東京に全断連本部があり、現在、大野徹理事長が全組織を統括している。各組織の顔の個人的魅力いかんが、その断酒会の消長に関係するように見える。ところで、AAと違って断酒会には有給の専従者がいない。すべては断酒者だけの無償の自主運営で、経費も現在、会費によって賄われているので、その意味で真の自助集団といえる。

断酒会の第二の特徴は、会合に家族を同伴することである。AAは当事者だけのclosed meetingが原則で、家族はAlanon、Alateenという別組織を形成している。医療効果からいうと、家族同伴がきわめて優れている。いつも一緒に通うことによってまず家族の絆が回復され、その家族の力によって断酒会への定着率もよくなるし、家族の体験談を聞かされることによって酒害の洞察が深まり断酒意欲も高まる。また、長年の酒害によって心因性障害に陥っている家族の回復ももたらされる。このような断酒会における家族同伴には、それなりの歴史がある。東京断酒友の会は、日本禁酒同盟活動の一環として昭和28年9月11日、東京湯島のキリスト教本郷教会で第1回の月例会を開いた。元来、禁酒相談には、妻子や親兄弟がやってくる。その延長線上の断酒友の会の例会へも、当然、家族が当事者を引きずって参加するようになったわけである¹²⁾¹⁴⁾。それで現在の断酒会でも、家族は準会員として運営にタッチしないが、その他あらゆる活動には参加を原則としている。近頃ではアメンスト会員といわれる女性酒害者が増えてきたので、家族として夫や子弟の姿もみられる。

断酒歴32年の大野徹全断連理事長の場合も、このような流れをとった。東大出身のエリート・サラリーマンであった彼は、重役会議の席でも酒酔で寝込んでしまうくらいの酒豪であった。「息子と刺し違えて死のう」と思い詰めているながら、毎夜、最寄りの目白駅で、終電車の赤いテールランプが見えなくなるまでベンチに坐って子息の帰りを待っていた母堂が、クリスチャンの妹の教会での風の便りから知った本郷教会の会合へ参加するようになった。半年ほど姑が参加し続けた頃、大野卓子夫人も「姑に対する義理」から参加してみた。昭和31年5月例会だった。20～30人のごく普通の人たちが出席していた。「よく来

られましたね。ここで酒は止まりますよ」と、暖かく迎え入れてくれた。参加者が代わる代わる立って酒害体験を語っていた。夫よりはるかにスザマジイ酒害者でも立派に立ち直っている姿をみて「あるいは夫も」と、希望の灯がみえてきた。家族の体験談もあった。辛かったのは自分1人でなかったこともわかって、慰めが得られた。以前、彼女は毎夕、会社の夫のデスクの側まで出迎えに行き、腕をシッカリ組んで連れて帰るようなことまでした。しかし夫は、駅の便所へ入ってからラッシュ時の人混みにまぎれて酒場へ走るような工夫で対抗した。万策尽きて夫人は、結局「飲む飲まんは、本人の問題である」と、手を引いていた。その後、母堂の目白駅通いがはじまったわけである。嫁姑の例会通いにもかかわらず、夫は酒を止めなかったが、家族は「自分の心が安まるから」と、例会に通い続けた。昭和32年2月26日、夫は「2.26事件のTVをみていて悟るところがあり」プツリと断酒しはじめた。妻が入会して1年経ったとき「誕生会をするから本人も連れてくるように」と誘われた。「そんなところへバカくさくっていけるか」と、いったんは拒否した夫も「とにかく1回だけ」と頼む「妻への義理から」例会へ出席してみた。ところがどうしたわけか、その後の月例会へ「話はしないが、飲んでいないことを皆にみせるため、2時間だけ席を暖めておこう」と思って夫も出席するようになった。昭和33年12月5日、大久保勇委員長を中心に東京断酒新生会が日本禁酒同盟から誕生した¹⁴⁾。

II 断酒会の活躍

高知には酒豪が多い。それで古来しばしば、禁酒令が出されていた。たとえば長宗我部元親は、長男信親の討死が部下の兵士の飲み過ぎのためであると怒って禁酒令を出したという¹⁵⁾。

禁酒新聞の記事からAA活動を知った高知の精神科医・下司高麿博士は、東京へ何回も足を運んで断酒友の会の月例会を見学し、町田病院で禁酒相談会をはじめた。昭和33年1月、下司博士は、自分の元患者で、当時酒を止めていた

松村春繁氏に手紙を書いて、高知でも断酒会を作ろうと誘った。かくて昭和33年11月9日、松村氏を会長に小原寿男氏と2人で高知断酒会新生会は発足した¹³⁾。松村氏はビルや安藤氏や大野氏と同様、既に酒を止めていたが、小原氏はボブと同様正に断酒会へ入って酒を止めたのであった。例会は月2回、下司病院で開かれた¹³⁾。

松村氏は、戦前からの社会党員で民主主義運動家であった。それで第二次大戦後は陽の当たるところへ出て、種々の役員として引っ張り回されて「タダ酒をいくらでも飲めた」結果、既に酒のために先妻と離婚していた彼は、ついにすべてを失ってしまう。残ったのは、先妻の娘と再婚した文子夫人だけ。そこで、安藤太郎夫人と同名の松村夫人は、夫に代って「大黒柱になろう」と決心し、娘に父を託して単身、山間僻地の教員となって一家の生計を支えた。「夫が片思いなくらい、強く」妻を愛し頼っているのを感じて「可哀そうで見捨てられなかった」からであった。その後、松村氏の甥の紹介により町田病院で下司博士と出会う。「4回目の入院あたりから身体が弱ってきて、5回目の退院後は飲めなくなって」いた。またこのとき、それまで父の世話をしてくれた娘が結婚して家を出ることになった。このようなギリギリの状況下でタイミングよく、下司博士から断酒会結成の誘いがかかった。「他の仕事はすべて失敗した。酒を止めるだけが、あんたの仕事や」と、奇しくも安藤文子夫人と同名の松村文子が全く同じことを夫にいった。その話を伝え聞いた下司博士が「これはホンモノである」と、松村会長を下司病院の職員待遇として断酒会活動を物心両面で支援した¹⁶⁾。

高知では「いごっそ」魂から、「男は自分の不始末を自分で片付ける」と高言して断酒会の例会へ家族に連れられてくるのを潔しとしない風潮があった。そのなかで、昭和35年入会組に岡本武猪という「いごっそ」者がいた。いつも暴言がひどいので「あやまり役」として妻も例会へ付いて来た。再飲酒して断酒会から脱落する人の多いなかで、岡本氏の断酒が継続している事実気づいた松村会長は、例会への夫婦出席例と単身出席例を統計的に検討し、前者の断酒成功率の高さを発見した。このような科学的観察から、結局、高知でも例会

出席は夫婦同伴と決められた^{15,17)}。しかし現在でも「酒飲んでさんざん苦しめられたのに、そのうえ、酒やめるから断酒会へ一緒にこいナンテ」と、夫婦同伴を拒否する家族も少なくないが、このような事例では早晚再飲酒するか離婚に至る。

「高知がレールに乗った」後、下司博士との協議によって全国的な断酒会組織の結成を目指して、松村会長の全国的な活動がはじまる。下司病院と断酒会から月当たり1万円ずつの旅費を出してもらい、時には自分の背広を質においてまで、夜行列車に乗って全国を駆け巡った。ところで、昭和35年12月、東京白菊禁酒婦人会を結成していた大野卓子夫人は、昭和37年8月、高知における「酒害から夫を守る会」結成へ招かれた。その関係で、昭和38年春、東京断酒新生会へ高知の松村会長から手紙がきて全国的組織の必要性を訴え、高知での結成大会に東京から代表2名、そのうちの家族代表としては大野夫人が指名されていた。次々と断られて酒害者代表の人選に困った早大出身の高橋春三郎（第2代）委員長は、大野徹氏を指名した。昭和38年11月10日、午前は高知断酒新生会5周年記念大会があり、その午後に全断連は高知と東京の断酒新生会を母体として結成された。ここで、日本の断酒会の基礎を築いた下司高麿、松村春繁、大野徹という3人の功労者の出会いがあった。その後、松村全断連会長は少なくとも月1回、東京へ出てきて交流を深めたが、東京断酒新生会の当時のメンバーは「土佐のカップが何しに東京へ出てくるのか」と冷淡であった。その代わり松村・大野の結び付きは逆に強くなり、松村会長は大野宅に泊まるのをつねとした¹⁴⁾。かくて日本の断酒会は、東京と高知でそれぞれの風土の上に誕生し、下司・松村・大野のトリオが、松村春繁会長を「顔」としてまとめ上げた日本的構図の全断連という「集団」の力で発展の路を鷲進しはじめる。

おわりに

酒は人間性の深奥へ作用する薬物で、アルコール依存症になってしまうと、心の杖となり柱となっているので種々合理化して何とか止めないでおこうとする。したがって、酒をただ止めるだけでは、心は空しくて生きていけない。AA

では、その空洞に神を容れる。日本の断酒会では、仲間の輪の中にドブプリ浸り「みんなと一緒」ということで安心を得る。どちらも、西洋と日本の精神的風土に根ざしたやり方といえる。このように、医療といっても文化に根ざすものであるから、何事であれ他国の技術や制度を闇雲に導入するのは賢明な策でない。

今1つ特記すべきは、アルコール依存症に対する真の医療がAAなり断酒会活動であるが、いずれも健康保険医療のワク外にある。健保医療は「また、酒を飲める身体にする」に過ぎない⁸⁾。何回となく入退院を繰り返させるなかで、酒造会社を儲けさせ、飲み屋を儲けさせ、政府を税金で儲けさせ、そしてもちろん、医療施設を儲けさせている。これだけたくさん儲けるところがあるのは、誰かが生命を削り家庭を破壊し金銭を蕩尽してくれているからである。健保医療は恐ろしい不健康医療としか言いようがない。アルコール依存症と正しく診断し、断酒会なりAAなりにつながるように援助することこそ、すべての医療者の義務である。奇妙なことに、トコトン飲んだ酒が酒を飲めなくして止めてくれる。アルコール医療に関与していると、保健、つまり健康の保持にあたって、健保医療より個人の行動の変容の重要性がよくわかる。医療者に何よりも要求されることは、正しい診断と治療の方向付けといった援助である。慢性疾患の治療に最も重要な個人の行動の変容をもたらすものは、アルコール問題の場合、断酒会の自助団のなかでのお互いを鏡とする精進にある。

引用・参考文献

- 1) 中田陽造：アルコール依存症の心理行動科学的診断法，日衛誌，42, 344, 1987.
- 2) 中田陽造：心理検査からみた断酒会の治療効果，日衛誌，43, 281, 1988.
- 3) Encyclopedia Britannica. William Benton, Publisher, 1967.
- 4) The United States Encyclopedia of History, The Curtis Publishing Co. 1968.
- 5) 井筒俊彦訳：コーラン，岩波書店，1964.
- 6) 香里カトリック教会・矢野吉久神父，夙川カトリック教会・塩見純子氏の御教示による。
- 7) Alcoholics Anonymous, AA World Services, Inc., 1976.

- 8) 中田陽造：断酒会と人間性の本質，メディカル・ヒューマニテイ，6月号，蒼穹社，1986.
 - 9) 旧約聖書，日本聖書協会，1949.
 - 10) 西宮武庫川AA 30周年記念誌，1987.
 - 11) 吉見周子：矢島楫子，人物日本女性史，11巻，集英社，1978.
 - 12) 小塩完次日本禁酒同盟会長の御教示による.
 - 13) 下司高麿博士の御教示による.
 - 14) 大野徹全断連理事長，大野卓子東京白菊婦人会会長の御教示による.
 - 15) 小林哲夫高知断酒新生会副会長の御教示による.
 - 16) 松村文子氏の御教示による.
 - 17) 高知断酒新生会の西村昌次郎会長，森田一志副会長の御教示による.
-